

# 魅力発信！えひめ農業NOW

令和3年6月

## 【お知らせ】

魅力発信！えひめ農業NOWは、県ホームページ(※1)で、県下全地区の内容について、閲覧できます。

※1 掲載場所：ホーム＞仕事・産業・観光＞農業＞農業の魅力発信

※2 この動向は、6月中に各普及地区から報告のあったものをとりまとめたものです。

～愛媛県農林水産部農業振興局農産園芸課～

〒790-8570

愛媛県松山市一番町4丁目4-2

(TEL) 089-912-2558

(FAX) 089-912-2564

<http://www.pref.ehime.jp/noukei/>

令和3年6月定期報告

局・支局	室・拠点	No.	標 題	頁
東予	地域	1	集落営農ネットワーク法人設立に向けた最終調整	1
東予	地域	2	西条市の「ひめの凜」、県全体の50%以上の作付！	1
東予	地域	3	目指せ後継者育成！ 西条青年農業者が高校生へ花育体験指導	2
東予	四中	4	ブランド新茶販売で四国中央市の茶産地をPR	3
東予	産地	5	「さくらひめ」の苗作りがスタート	4
東予	産地	6	絹かわなすの調査手法をJA職員に指導	4
今治	地域	7	県育成さとも品種「媛かぐや」栽培講習会を開催	5
今治	地域	8	「甘平」の裂果対策に向けた土壌水分センサーを設置	5
今治	地域	9	ニホンザル対策について検討会を開催	6
今治	しまなみ	10	上浦被災地の早期復興を目指してワーキングチーム結成	7
今治	しまなみ	11	えひめ地域鳥獣管理専門員と連携し、効果的な餌付け方法を指導	7
今治	しまなみ	12	早期成園化に向け、かんきつ苗木の管理指導を実施	8
今治	しまなみ	13	地域戦略ビジョンの濃密指導対象者へ重点指導を実施	8
今治	産地	14	経営の専門家を招いたオリーブの販売戦略検討会を開催	9
今治	産地	15	醸造用ぶどうの栽培研修会を開催	9
今治	産地	16	醸造用ぶどうの省力栽培実証ほを設置	10
中予	地域	17	下難波地区樹園地整備を検討！「松山地区災害復興・樹園地再編ワーキングチーム会」開催	11
中予	地域	18	施設「愛媛果試第28号」の天敵利用に向けて	11
中予	地域	19	傾斜かんきつ園地でのドローン防除実証をスタート	12
中予	地域	20	なす天敵利用技術の確立に向けて	12
中予	地域	21	ユーカリにおける酸素供給剤施用の実証ほ設置	13
中予	地域	22	中予管内の裸麦の状況について	13
中予	地域	23	中島本島のイノシン生育頭数に基づいた捕獲目標を策定	13
中予	地域	24	農業女子の技術力向上に向けて	14
中予	地域	25	農副連携のさらなる推進を目指して	14
中予	伊予	26	七折小梅優良系統増殖に係る取り木講習会を開催	15
中予	伊予	27	「媛かぐや」の試作を開始	15
中予	伊予	28	スクミリンゴガイ実証ほ場でドローンによる防除を実施	16
中予	久万	29	ピーマン草勢管理の徹底に向けて各支部で講習会	17
中予	久万	30	ピーマン新規栽培者にベテラン栽培者がアドバイス	17
中予	久万	31	久万高原トマト出荷会議において指導班ほ場内の技術実証等について情報提供	17
中予	久万	32	トマト研修生がお互いの栽培状況を情報交換し、選別・出荷方法等を確認	18
中予	久万	33	トマトベテラン農家による経験の浅い就農者への技術伝承	18
中予	久万	34	第1回久万高原ブランドづくり推進会議の開催	19
中予	久万	35	久万高原町の雑穀再興に向けた意見交換	19
中予	産地	36	さくらひめ鉢物の産地化に向けた活動を開始	20
中予	産地	37	「東温パクチャー」の産地化に向けラストサポート	20
南予	地域	38	地域一丸となった担い手育成に向けて	21
南予	地域	39	水田のジャンボタニシ被害軽減に向け講習会を開催	21
南予	地域	40	加工用果物の産地化方を協議	22
南予	地域	41	和菓子原料向け市田柿の安定生産に向け摘果を指導	22
南予	地域	42	所属増に向け、鬼北地域のきゅうりが個選共販から共選共販へ移行	23
南予	鬼北	43	新規栽培候補者に栽培管理を指導 加工桃排水対策モデル園生育は良好	23
南予	鬼北	44	就農研修生のかんきつ園地巡回を実施	24
南予	愛南	45	南宇和高校への愛南農業振興に向けた出前授業を実施	24
南予	愛南	46	令和3年度「第1回南予マルシェ」の開催	25
南予	産地	47	アボカド栽培講習会を開催	26
南予	産地	48	北宇和高校の生徒を対象にうめの収穫体験研修会を開催	26
八幡浜	地域	49	第1回シトラス講座をCATVで発信	27
八幡浜	地域	50	夏季のカルシウム剤散布による「清見」の高品質生産	27
八幡浜	地域	51	スマート農業技術の普及に向けて、西宇和スマート農業推進協議会を開催	28
八幡浜	地域	52	就農支援チーム設立検討会を開催	28
八幡浜	大洲	53	石地温州の隔年結果防止マニュアルを作成し、講習会で普及推進	29
八幡浜	大洲	54	刀根早生柿の早期出荷に有効な6月の剥皮処理を啓発！	30
八幡浜	大洲	55	農業の維持・発展に向けた「農事組合法人やさらい」設立	30
八幡浜	大洲	56	「若くても作業は楽がいい！」アシストスーツ試着体験会の実施	31
八幡浜	大洲	57	新規就農者の定着を強力に推進	32
八幡浜	大洲	58	新たな品目の産地づくりへ協議	32
八幡浜	大洲	59	管内大規模法人と意見交換	33
八幡浜	西予	60	高品質果実生産に向けたぶどうの摘粒講習会を開催	34
八幡浜	西予	61	地元農高生に対して水稻栽培に関する理解を深める	34
八幡浜	西予	62	積算温度計の導入により小麦の適期刈取りを予測	35
八幡浜	西予	63	大野ヶ原にんにくの出荷始まる！	35
八幡浜	西予	64	細霧冷蔵導入へ向けた現地研修を実施	36
八幡浜	西予	65	新たな高収益作物として「さとも」の導入を検討	36
八幡浜	産地	66	加工用青ねぎの収量UPにつながる育苗条件を改善	37
八幡浜	産地	67	マーマレードに次ぐかんきつを利用した特産品開発を目指して	37
八幡浜	産地	68	半樹交互結実で川田温州の連年安定生産	38
農産園芸	高度普及	69	リアルタイム農業普及指導ネットワークシステムによる遠隔診断スタート	39
農産園芸	高度普及	70	普及組織先導型革新的技術導入事業計画の策定に係る協議について	40
農産園芸	高度普及	71	第1回普及指導員流通・経営、6次産業化調査研究会の開催	41
農産園芸	高度普及	72	首都圏での流通・販売動向等調査のPR動画の撮影開始	41
農産園芸	高度普及	73	ひめの凜の高品質・良食味栽培に向けた中干し講習会を開催	42
農産園芸	高度普及	74	「紅プリンセス」根域制限栽培モデル園で施肥・かん水管理の実証開始	43
農産園芸	高度普及	75	新規格高設栽培ベッドで栽培した、いちご株の根掘り調査を実施	44
農産園芸	高度普及	76	さとも貯蔵種芋が生産能力調査実証ほで順調に生育	45

## 「魅力発信！えひめ農業NOW（6月分）」

### 東予地方局 地域農業育成室

#### ■ 集落営農ネットワーク法人設立に向けた最終調整

- 地域農業育成室は、西条市小松町の集落営農2法人における集落営農ネットワーク法人の9月設立に向け、6月2日に社会保険労務士、15日に司法書士を交えて、集落営農法人役員やJA職員らと役職員の配置や福利厚生、定款及び営農計画について素案を作成した。
- これは、7月に定款等運営方針を決定するため、農業経営者総合サポート事業を活用し、専門家を招いて最終調整を行ったもの。
- 今後も、従来から同法人をサポートしているJA中央会、JA周桑、愛媛大学及び当室で組織する設立支援検討会において、設立に向け支援を強化していく。



社会保険労務士を交えて協議

#### ■ 西条市の「ひめの凜」、県全体の50%以上の作付！

- 地域農業育成室では、現在、適期中干しを迎えた「ひめの凜」の栽培指導を徹底している。
- JA周桑とJAえひめ未来の「ひめの凜」は、5月23日から田植えが始まり、早いほ場では中干し時期に入っている。（6月28日現在）
- 「ひめの凜」は、JA周桑で77名、99.6ha（昨年面積比261%増）、JAえひめ未来で45名・64.5ha（昨年面積比329%増）作付されており、県全体の作付面積の53%を当管内が占めている。
- 当室は今後、生育診断に基づく穂肥の適期適量施肥を重点に指導していく。



現地で適期中干しを指導

## ■目指せ後継者育成！ 西条青年農業者が高校生へ花育体験指導

- 地域農業育成室は6月23日、花き生産の担い手確保や地産地消の促進のため、西条地区青年農業者連絡協議会花き実践班の花育活動の取組みを指導した。
- 今年は、「With コロナ！『花』のアレンジメントでおうち時間を楽しもう」をテーマに、丹原高校園芸科学科2年生18人を対象に、特産のバラと多肉植物のアレンジメント体験活動等を実施した。班員は、「自らが楽しみながら仕事をするのが成功のポイント」であり、「細かく経費を計算した経営をしないと失敗する」と農業の魅力と厳しさを伝えた。
- 丹原高校は2年前から花木の挿し木プロジェクトに取り組んでおり、今回挿し木で得られたピットスポラムをアレンジメントに用いたことが好評で、この後、初めて挿し木に挑戦する2年生の意欲も高まった。
- 今後、7月には市内保育園等の教職員を対象とした講習会等を計画しており、教職員による園児への花育活動が、市内全域に展開されることを期待している。



バラハウスの見学



多肉植物の寄せ植え体験



ピットスポラムとバラのアレンジ

## 東予地方局 地域農業育成室 四国中央農業指導班

### ■ブレンド新茶販売で四国中央市の茶産地をPR

- 四国中央農業指導班は6月3、11、18日の3日間、うま茶振興協議会（事務局：四国中央市農業振興課）が霧の森や産直市で開催した新茶販売フェアで、産地紹介パネルを用いて同市の茶産地（新宮・富郷）をPRした。
- 協製茶場、大西茶園及びJAうまの3茶工場は、相互に協力して開発したブレンド新茶に加え、各茶工場の新茶や茶菓子等自慢の商品を多数揃えて、新商品のPRと販売促進を行った。
- 試飲した消費者からは、「各茶工場のお茶や産地が見え、味わえた。ぜひ購入したい」と好評だった。
- 今後、当班は各茶工場の製茶技術を生かしたより高品質なブレンド茶の商品化を目指し、新商品のネーミングやPR等について、当協議会の全国を視野にした活動を支援する。



市内の産直市でブレンド新茶等の販売



茶産地（新宮・富郷）紹介パネル





## 東予地方局 産地戦略推進室

### ■「さくらひめ」の苗作りがスタート

- 新居浜市の(有)別子木材センターで、県育成デルフィニウム「さくらひめ」の育苗がスタートした。
- 産地戦略推進室では、同センターにおける良質苗生産を支援するため、夏季高温等の異常気象も想定した育苗ステージごとの水・肥料・温度管理等について、詳細な打合せを行ってきたところである。
- 育苗作業は、6月9日からセルトレイへの播種を開始しており、今後、夜間冷房施設で育苗を行ったうえで、8月上旬以降に生産者に届けられる。



さくらひめの播種作業

### ■絹かわなすの調査手法をJA職員に指導

- 産地戦略推進室では、JA職員が主体となった絹かわなすの生育調査に向け、継続した指導を実施している。
- これは、同室で昨年度まで取り組んできた当該品目に係る普及ビジョンや局予算において確立した調査手法として、リアルタイム栄養診断による植物体内の窒素濃度や生長点までの高さ等を調査し、基準値と比較することでその後の肥培管理等の指導を行うもので、その手法の習得を担当のJA新規採用職員に対して実施しているもの。
- JA職員からは、データに基づき生産者へ指導できると好評であり、今後9月まで月2回の調査を予定している。



調査を行うJA職員

#### ※リアルタイム栄養診断

調査ほ場で葉柄等を採種し、硝酸イオンメーターで搾汁液を瞬時に測定する方法

## 東予地方局今治支局 地域農業育成室

### ■県育成さといも品種「媛かぐや」栽培講習明会を開催

- 地域農業育成室は6月9日、さいさいきて屋会議室において、今年度から「媛かぐや」のセル苗栽培に取り組む生産者8名を対象に栽培講習会を開催した。
- セル苗で栽培した「媛かぐや」は、家庭消費に向くM、L級（600g～1,200g/個）の大きさの芋に均一化を図ることができ、直売所（さいさいきて屋）からの販売を通じた家庭消費向けの需要拡大を図ることとしている。
- セル苗の定植は6月30日から始まり、順次、当室とJAが連携して生産者を巡回指導し、スムーズな活着を促す定植方法や今後の栽培管理等の指導を行っていく。



セル苗栽培のメリットを説明する普及職員

### ■「甘平」の裂果対策に向けた土壌水分センサーを設置

- 地域農業育成室は6月2、8日に産地づくりビジョン「愛媛Queen スプラッシュの生産拡大」の一環で、「甘平」の裂果対策やかん水指導等に活用するため、土壌水分センサーを昨年度裂果が少なかった水田転換ほ場（今治市乃万）と裂果の多かった基盤整備ほ場（今治市大西町）の2つの園地に設置した。
- 当室は今後、定期的にデータを採取し、水分変動を数値化することで裂果との相関等を確認し、当該ほ場での生育実態の把握を行う。
- また、得られたデータは、今後、今治市上浦町で実施する再編復旧園地の土づくり対策の参考データとしても利用する予定である。



土壌水分計の設置

## ■ニホンザル対策について検討会を開催

- 地域農業育成室では6月23日、今治市とニホンザル対策検討会を開催した。これは、管内陸地部ではニホンザルによる農作物被害が増加しているが、加害ザルの実態がある程度解明できたことから、被害軽減を図るための検討会開催を今治市に持ち掛けたもの。
- 当室からは、昨年度ニホンザルが群れで出没した園地の被害状況や被害園地における対策状況を報告した。
- 県自然保護課が委託した行動調査業者がオンラインで参加し、管内陸地部に生息するニホンザルの群れは4群で、うち加害レベルの高い群は2群であることや、令和2年度に推定個体数の多い群のサル1頭にGPS首輪を着装して得られた調査結果の報告とともに、群れの個体管理計画を立てる等の先進的対策に取り組む他県の優良事例を紹介した。
- 当室は各報告の後、今治市と今後の対策の進め方について話し合い、加害ニホンザルの実態を知ってもらい、対応策を実践していくための研修会を地元猟友会と連携して開催することとした。



今治市の加害群の行動調査結果を説明  
(オンライン)



野生サルの行動特性を学習



## 東予地方局今治支局 地域農業育成室 しまなみ農業指導班

### ■上浦被災地の早期復興を目指してワーキングチーム結成

- しまなみ農業指導班は、6月24日に上浦地区早期復興ワーキングチーム（WT）を結成し第1回会議を開催した。今後WTは、平成30年豪雨被災地の早期復興と産地力の強化を図っていく。
- チームは県（支局地域農業育成室と農村整備課）、今治市とJAおちいまばりの担当で構成され、会議では、農地整備後の営農がスムーズに再開できるように、担い手や営農計画について情報共有を行った。その後、被災現場で、農村整備課から今後の整備計画の説明を受けた。
- 当班は、今後の島しょ部における果樹栽培のモデルづくりを整備後の園地で行うため、積極的に支援を行う。



チームリーダーによる設立挨拶



現地を見ながら整備計画の説明

### ■えひめ地域鳥獣管理専門員と連携し、効果的な餌付け方法を指導

- しまなみ農業指導班は6月9日、えひめ地域鳥獣管理専門員（以下、鳥獣管理専門員）と連携し、新技術実証ほにおける有害鳥獣の効果的な誘引方法等について現地管理状況を確認し、餌付け方法の改善等を指導した。
- 当日は、鳥獣管理専門員が現地の状況を確認のうえ、地元管理者（農家有志2名）に効果的な餌付け方法の助言指導を行った。
- 専門員から、「少量多回数で、新鮮な餌付けを」「イノシシの嗜好性を考慮した地元産かんきつ類等の活用」「イノシシの警戒心をいかに取り除くかが重要」といった助言を受け、地元管理者はさっそくこれまでの餌付け方法を改善することとした。
- 当班は引き続き、鳥獣被害の軽減に向け新技術実証ほの有効活用を支援する。

#### ○えひめ地域鳥獣管理専門員制度について

地域の鳥獣害対策を牽引する人材育成を目的に、県では平成30年度に同専門員制度を創設し、県下で延べ25名が専門員の認定を受け、鳥獣害に関する地域課題の解決に向け活動中。



鳥獣管理専門員へ管理状況を説明

### ■早期成園化に向け、かんきつ苗木の管理指導を実施

- しまなみ農業指導班は6月10日、かんきつ育成園の早期成園化に向けた初期管理を指導した。
- 当日は、青果業も営む農業法人が「売れる商品づくり」を模索する中で、今春、苗を定植した「かんきつ中間母本農6号」の園地で、芽かぎ方法やかん水等肥培管理を指導した。
- 生産者は「初期管理の重要性が認識できた」と今回の指導を受け、苗木育成管理の必要性を再認識した。

かんきつ中間母本農6号：農研機構果樹研究所が育成し、平成13年に命名登録。濃厚な食味が特徴で、機能性成分（β-クリプトタン、ルテイン、シトルリン）が豊富。栽培が容易で、果皮特性から引きもぎ（ハサミを使わず手でむぐ収穫方法）が可能で、省力生産技術や加工向けの減農薬生産が期待される。



生産者へ管理方法を指導

### ■地域戦略ビジョンの濃密指導対象者へ重点指導を実施

- しまなみ農業指導班は、令和3年度地域戦略ビジョン「意欲ある就農者のスキルアップによる担い手の確保と育成」の推進に向け、市町、JA等の関係機関と構成する推進チーム体制を強化し、濃密指導対象者への重点指導を実施。
- 濃密指導対象者5名に対し、定期的に推進チームで指導状況や各個人の課題等を情報共有、経営改善や今後の技術指導について検討。
- 活動の一環として、6月7日には、重点指導対象者2名を訪問し、今後導入を検討する農業施設（モノレールやかんきつ用ビニールハウス等）について、新規就農者の意向を聞き取り、農畜産業関係補助事業の要望マッチングへ照会することとした。
- 当班では、引き続き、地域農業育成室協力のもと技術指導や経営改善指導を強化し、就農計画の確実な実現に向け支援していく。

## 東予地方局今治支局 産地戦略推進室

### ■経営の専門家を招いたオリーブの販売戦略検討会を開催

- 産地戦略推進室は6月3、22日、今治市吉海町のオリーブ園地にて、(公財)えひめ産業振興財団のプランナー関原雅人氏を講師に招き、しまなみ農業指導班、地域おこし協力隊の参加のもと、オリーブ生産団体「ポパイズクラブ」の販売戦略検討会を開催し、経営改善戦略の策定について協議した。
- 検討会では、自家製オリーブオイルや塩漬けの販売ターゲット、販路に応じたパッケージングなどの工夫、生産コストに見合った価格設定などを協議。関原プランナーからは、「差別化を図るためのストーリーが大事である。まずは『しまなみで作る意味』や『商品へのこだわり』を整理してほしい」と提案された。
- 次回の協議は、7月30日に同所で行う予定であり、10月の収穫開始を見据えて、労働費を含めた生産コストを算出し再生産可能な価格と売り方を検討する。



プランナーを交えた協議

### ■醸造用ぶどうの栽培研修会を開催

- 産地戦略推進室は6月8日、醸造用ぶどう生産者の技術力向上と新規栽培者の掘り起こしを図るため、栽培研修会を開催した。
- 研修会では、(株)大三島みんなのワイナリーの担当者が栽培管理の説明をした後、当室から、栽培で問題となる病害虫について説明。生産者に早めの防除を徹底するよう求めた。
- 今回は、生産者のほかに、ぶどう栽培に関心のある青年農業者や地域おこし協力隊員3名も参加。主要品種‘マスカット・ベリーA’の誘引・棚付け作業を体験しながら、作業上の留意点を質問する等、醸造用ぶどう栽培への理解を深めていた。



病害虫防除について説明



誘引作業を体験する参加者

## ■醸造用ぶどうの省力栽培実証ほを設置

- 産地戦略推進室は、今治市大三島町において、醸造用ぶどうの省力栽培について検討する新たな実証ほを設置した。
- 醸造用ぶどうは元々、年間作業時間の少ない品目ではあるが、更に省力化を図ることで、生産者が取り組める面積の拡大が可能となる。
- 今回、除草作業を省くための抑草シートを被覆し、樹体生育への影響等を調査する。



草シートの被覆



## 中予地方局 地域農業育成室

### ■下難波地区樹園地整備を検討！「松山地区災害復興・樹園地再編ワーキングチーム会」開催

- 地域農業育成室は6月8日、下難波地区の樹園地整備計画を推進するため、県、市、JAの関係者で構成するワーキングチーム会を開催した（27人出席）。
- 今回は、4月に実施した入植予定者への調査（アンケート方式）結果を受け、苗木の定植時期等の作業スケジュールの確認や施設整備計画、土づくり等について工事と営農の視点から合意形成を図った。
- 特に問題となっていた定植前の有機物施用等の土づくりについては、当室と松山市農業指導センターで策定した「整備樹園地の土づくり指針」を採用し、今後の営農に反映させることとした。
- 当室は今後、施設導入に活用する補助事業等について、県農産園芸課を交えた協議を行うとともに、事例ごとに実務担当者による話し合いを続け、順調な営農スタートを目指す。



ワーキングチーム会

### ■施設「愛媛果試第28号」の天敵利用に向けて

- 地域農業育成室は6月17日、JA営農指導員等26人に、昨年度実証した施設栽培の「愛媛果試第28号」における天敵(スワルスキーカブリダニ)利用の実証結果を報告した。
- かんきつのハダニ類防除については、有効な薬剤が少ないことや薬剤抵抗性の発達により、化学合成農薬の連用だけでは対応が困難になっていることから、スワルスキーカブリダニを利用した防除を実証。
- 実証結果は、スワルスキーカブリダニの放飼により、ハダニ類の防除回数が約5割削減でき、果実品質は慣行防除と同等以上となった。
- また、スワルスキーカブリダニ導入施設の周囲に光反射シートを展張した施設では、アザミウマ類の防除効果も確認された。
- 指導員からは、「ハダニ類防除に困っている生産者には天敵の導入が良さそうだ」などの声が聞かれ、天敵導入が有効な技術であると期待されている。



実証結果の報告会



光反射シートを展張した施設



## ■傾斜かんきつ園地でのドローン防除実証をスタート

- 地域農業育成室は6月21日、松山市堀江のJAえひめ中央新規就農研修センター堀江柑橘研修ほ場で、JAえひめ中央研修生17人等と連携し、ドローンによる黒点病防除実証を開始した。
- これは、伊予柑の超省力化技術の確立・普及を目指した「伊予柑を中心とした柑橘産地復興モデル確立事業」のドローン防除現地実証として実施したもので、薬液付着ムラの改善を検証する。
- 現地実証に先立ち、6月8日に開催した「第1回伊予柑の超省力化技術による中予地域の儲かる柑橘経営検討会」で、ドローンの飛行方法を変えて比較検証する必要があるなど関係機関と協議していた。
- ドローン防除は、9月までに計3回を予定しており、画像解析による薬液付着状況の把握など、防除効果の検証を進める。
- 当室では、傾斜地での露地かんきつ栽培管理のうち、特に重労働である夏場の防除の省力化を図ることにより、かんきつ王国愛媛を支える伊予柑の生産量維持を目指す。



研修生らがドローンの性能や薬液付着状況を確認し、調査を通じて新技術への理解や関心を深めた

## ■なす天敵利用技術の確立に向けて

- 地域農業育成室は、なす天敵利用技術の確立に向け「なす産地強化対策事業」に取り組んでおり、このほど、施設1か所（7a）には土着天敵「タバコカスミカメ」を、露地2か所（13a）には市販天敵「スワルスキーカブリダニ」の放飼による実証ほを設置した。
- なすの重要害虫であるアザミウマ類防除は、農薬に対する抵抗性が発達し、対策に苦慮していることから、当室では天敵による防除を推進、指導している。
- また、6月7日には、タバコカスミカメを飼育・増殖する「天敵温存ハウス」の設置場所について関係機関と協議のうえ決定し、今後、ハウスの設置を進め、タバコカスミカメの安定供給に努める。



葉の上に天敵を放飼



天敵の定着状態を調査

### ■ユーカリにおける酸素供給剤施用の実証ほ設置

- 地域農業育成室は6月7日、東温市松瀬川のユーカリ・グニーほ場において、近年、定植後3～4年で発生が多い株枯症状対策として、酸素供給剤施用の試験を開始した。これは、土壌の排水不良による根域の酸素欠乏が原因と推察されることを受け、症状の発現の有無や程度、生育状況を確認することを目的に実施するもので、効果が確認できれば産地拡大につながるものと考えている。
- 生産者からは毎年の株枯症状に有効な対策となることが期待されており、当室は今後、市場から信頼される安定出荷の可能な産地づくりを進めていく。



根域へ酸素供給剤施用

### ■中予管内の裸麦の状況について

- 地域農業育成室では、管内の裸麦について情報収集を行った結果、6月25日現在の状況は、収量は昨年並みで豊作であるが、品質は昨年より落ちる模様である。特に、本年度は倒伏により収穫不能の畑もあったことから減収を懸念していたが、予想よりも多い結果となった。
- 品質低下の要因は、降雨や収穫遅れが影響したと考えている。
- 当室では、1月下旬から湿害回避や収穫機械（コンバイン）の作業性向上のための排水対策など、降雨に備えた対策指導を5回行い、準備を進めてきた。
- 今後は本年度の状況を踏まえた栽培指針の改定を行い、更なる高品質・安定生産を目指す。

### ■中島本島のイノシシ生息頭数に基づいた捕獲目標を策定

- 地域農業育成室は6月24日、愛媛大学と連携し、昨年度実施した中島本島のイノシシ生息調査の報告会を開催した。
- 報告会では、令和3年4月1日時点の生息頭数は1,731頭と推定（自然死や島外からの移出入は想定せず）されており、その3分の1が、出産可能なメスとして平均3頭の子供を産むことを想定すると、今年度1,731頭の増加が推定され、最低でも同数を捕獲しないと、生息密度が減少しないことを生産者に説明した。
- 当室は今後、中島本島における鳥獣被害の削減を目指し、今年度の捕獲目標を1,731頭として、捕獲指導を進めていく。



中島イノシシ生息調査報告会



## ■農業女子の技術力向上に向けて

- 地域農業育成室は6月28日、女性農業者の栽培技術向上を図るため、中島農業女子会「姫たちばな」の女性農業者5人を対象としたかんきつ摘果講習会を開催した。
- 講習会では、伊予柑、温州みかん、甘平、せとか及び愛媛果試第28号等の摘果方法について、普及指導員による実技指導を行ったところ、参加者は互いに、摘果の適正時期や、枝葉の見方等の作業時のポイントについて話し合いながら実習しており、技術向上に意欲的であった。
- また、摘果実習後には、空調服の活用等、各自が行っている作業装備等についての情報交換も行った。
- 同会は、会員相互の情報共有や連携を図ることで自主的な活動に取り組んでおり、当室は、今後も同会の栽培技術向上を支援していく。



摘果実習



空調服の試着

## ■農福連携のさらなる推進を目指して

- 地域農業育成室では6月4～24日の間、管内の農福連携のマッチング事例について、生産者と福祉施設に対し、今年の作業や連携状況の確認を行った結果、新たに施設利用者のための休憩所やトイレを設置する農家が現れるなど、良好な関係が構築されていることが確認できた。
- 両者から聞き取りをしたところ、福祉施設関係者からは、「仕事を貰えてありがたい」「施設外就労を楽しみにしている子が多い」の意見があり、生産者からは、「施設利用者は真面目で集中力が高く、非常に助かっている」「これからも継続してほしい」などの感想があった。
- 当室は、昨年度までの実績ある取組みの継続と、今後の新たなマッチングに向け、作業の細分化や視覚化を行い、今後も関係機関及び福祉施設と連携し、労働力確保と施設利用者の就労機会の創出につなげていく。



たまねぎの積み込み作業



ブルーベリーの選別作業



施設利用者のための  
休憩所やトイレ

■七折小梅優良系統増殖に係る取り木講習会を開催

- 伊予農業指導班では、砥部町七折地区で生産量や品質の安定した優良系統を母樹に選抜するため、連年結実している樹の調査を実施しており、候補の絞り込みを行っている。
- 優良系統選抜候補の中には、10 アール当たり換算で2,000kg~3,000kgの収量を上げる樹もあり、期待の持てる系統もある。
- そこで、連年結果性が確認できた系統については、早期の増殖を進めるため、6月15日に優良系統母樹園にて梅組合員を対象に、取り木によるクローン苗木育成の技術講習会を開催した。
- 講習では、枝の選定（緑枝取り）や処理の位置決め、剥皮による枝処理の方法、発根促進剤の処理、ミズゴケの調整方法と注意点、処理後の管理方法等について実演した。
- 当班では、今後、関係機関や農業者等に優良系統の選抜とその苗木の増殖を進めていくことを説明するとともに、砥部町の梅改植事業と連携して、優良苗木の改植を進め、産地の安定生産につなげていく。



取り木講習会



取り木の方法を説明する普及指導員

■「媛かぐや」の試作を開始

- 伊予農業指導班は6月17、22日に、ファーマーズマーケットいよっこの出荷者5名に、「媛かぐや」のセル苗を配布し、栽培指導した。
- これは、県が育成した特徴あるさといも品種「媛かぐや」は、種芋を直接定植すると、萌芽、生育が不均一になるため、セル苗増殖法による栽培が必要で、今回、農林水産研究所と連携し、セル苗を育苗し、試作を開始した。
- 当班は今後、直売所に向く大きさの「媛かぐや」に指導を実施し、特産品化を進めていく。



栽培指導とセル苗配布



動画による作業手順の説明

## ■スクミリングガイ実証ほ場でドローンによる防除を実施

- 伊予農業指導班では、管内集落営農組織において、スクミリングガイ防除に係る実証試験を実施しており、25a のほ場でドローン防除を実施した。
- 年々増加する田植え直後の稚苗の食害に対し、これまでは田植え後の殺虫剤散布で対応してきたが、効果が不安定との声が多かった。
- より安価かつ省力で波及の見込みがある防除手法を組み立てているが、生産者からは、箱処理剤での施用及びドローン防除に関心が高い。
- 当班では、防除後の状況を注視するとともに、他の実証ほとも効果を比較しながら、次年度以降の防除の展開方向を検討していく。



ドローンの防除



薬剤の調整



## 中予地方局 地域農業育成室 久万高原農業指導班

### ■ピーマン草勢管理の徹底に向けて各支部で講習会

- 久万高原農業指導班は、6月3～10日にかけて開催した久万高原ピーマン部会各支部（6支部、127人）の現地栽培講習会で、かん水、摘果、追肥等の草勢管理技術を指導した。
- 参加者からは不安定な気象条件下での草勢管理、病害虫防除等について熱心な質問があった。
- 当班は今後も、取組み初期農家を重点的に個別巡回し、草勢管理技術の徹底による生産量向上を支援していく。
- なお、ピーマン出荷は6月14日から開始し、出荷開始日は前年並み。



現地で行われた栽培講習会

### ■ピーマン新規栽培者にベテラン栽培者がアドバイス

- 久万高原農業指導班は6月23日、久万高原ピーマン部会新規栽培者（5戸）を対象に、ベテラン栽培者とともに現地指導した。
- これは新規栽培者のほ場を訪問し、ほ場管理の問題点をベテラン栽培者の視点で助言するもの。
- 新規栽培者は、かん水、追肥、整枝等今後の草勢管理について熱心に質問し、具体的なアドバイスを受けていた。
- ベテラン栽培者による個別現地指導は今後も定期的に行われ、当班も協力して部会全体の生産量向上を支援していく。



ベテラン栽培者による現地指導

### ■久万高原トマト出荷会議において指導班ほ場内の技術実証等について情報提供

- 久万高原農業指導班は6月17日、JA松山市久万支所で開催された久万高原トマト部会出荷会議（生産者・関係者等約30人出席）において、当班ほ場内で実施しているトマト栽培実証計画と農薬危害防止について情報を提供した。
- 本年度のトマトに係る実証は、品種比較、夏季の高温障害の回避技術、基肥（けい酸加里）の施肥量比較等の6課題に取り組んでおり、結果はトマト部会で報告することとしている。
- なお、JA松山市久万高原トマト部会（部会長：渡部進）の令和3年度の取扱計画は、生産者78人（前年84人）、面積13.1ha（同14.0ha）、出荷計画量1,200t（同1,280t）となっており、6月23日から出荷が始まった（昨年6月26日）。

## ■ トマト研修生がお互いの栽培状況を情報交換し、選別・出荷方法等を確認

- 久万高原農業指導班は、トマト研修生・新規就農者 11 人を対象に、5 月下旬から 2 週間に 1 度、定期的な生育調査を行い、生育状況が比較できる調査結果表を作成、トマト勉強会等での指導に活用している。
- 6 月 21 日、J A 松山市経済センターでトマト研修生 4 人を対象に開催した勉強会では、当班から調査結果表をもとに今後の栽培管理を指導し、お互いの生育状況について情報交換した。
- また、J A 担当者から出荷に向けて、収穫・庭先選別・出荷方法等の留意点について説明があった後、選果場に移動し具体的な出荷の流れについて確認した。



室内での勉強会



選果場で具体的な出荷の流れを確認

## ■ トマトベテラン農家による経験の浅い就農者への技術伝承

- 久万高原農業指導班は 6 月 24 日、J A 松山市「農の匠事業」の取組みの一環として、ベテラン農業者とともに経験の浅い新規就農者へ訪問し、栽培管理を指導した。
- 当日は、トマトの「農の匠」に認定されている中嶋豊さん、大野千代利さんと 2 班に分かれ、J A 職員とともに就農 1～2 年目のトマト生産者 6 人のハウスを訪問、現在の生育状況を確認しながら、今後の栽培管理の留意点等についてアドバイスを行った。



新規就農者のトマトハウスの生育状況を確認



### ■第1回久万高原ブランドづくり推進会議の開催

- 久万高原農業指導班は6月2日、「久万高原の漬物向け野菜産地再興事業」の一環で、第1回久万高原ブランドづくり推進会議を開催し、町・JA等と本年度の事業計画について協議。
- 会議では、漬物向け野菜の栽培実証計画、漬物の新商品開発支援の状況、漬物向け野菜栽培及び加工マニュアルの作成等を協議した。
- アドバイザーの松山東雲短期大学大塚名誉教授からは、「漬物で重要なのは味と食感、また匂いや風味も重要なポイントであり、新しい風味を付与することで新商品の可能性が広がるのではないか」等の助言があった。



推進会議

### ■久万高原町の雑穀再興に向けた意見交換

- 久万高原農業指導班は6月25日、ゆりラボ（官民協同拠点施設）で開催された久万高原町雑穀料理勉強会に出席し、地域固有農産物である雑穀栽培の現状や加工品開発の取組みと問題点等について提言した。
- 同会は今年度初めて開催され、雑穀料理研究家、雑穀栽培者、地域おこし協力隊、町と当班の9人が出席し、それぞれの視点から雑穀の商品開発や販売促進、生産拡大について問題点と対応策を話し合ったもの。
- 今回話し合われた内容をもとに、具体的な推進方策を煮詰めていく予定であり、当班は今後も作付面積の拡大や商品開発の支援に取り組む。



雑穀をもとにした地域おこしを検討



雑穀を使った料理を試食

## 中予地方局 産地戦略推進室

### ■さくらひめ鉢物の産地化に向けた活動を開始

- 産地戦略推進室は6月23日、4月から市場調査や情報発信等を目的に実施しているキャンペーン（6/20～6/30）の取組状況や今後の活動計画について協議するため、「さくらひめ鉢物産地づくり推進事業」第1回連絡会議を花き研究指導室で開催し、生産者等7人が参加。
- 当室から、さくらひめ鉢物の市場・消費者ニーズを把握するアンケート調査の途中経過（6/18現在：248人から回答）について、市場からの品質評価も概ね良好であり、消費者からも「桜に似た色合いで華やか」「愛媛の花として頑張してほしい」「購入できる販売店を増やしてほしい」等の意見があることを報告。
- 生産者からは、「需要は県外市場ではまだある」「産直でも売れ行きは好調で、県内での認知度の高まりを感じる」等の意見があり、さくらひめ鉢物への期待を寄せていた。
- 当室では引き続き、アンケート調査の取りまとめ及び分析を進め、8月に開催予定の栽培セミナーで報告するとともに、花き研究指導室と連携した技術実証や園地巡回に取り組み、さくらひめ鉢物の高品質化、産地化を推進する。



さくらひめ鉢物に対する今後の活動計画について協議

### ■「東温パクチー」の産地化に向けラストスパート

- 産地戦略推進室は6月29日、過去2年間の事業実績を踏まえ今年度の事業計画について協議するため、「令和3年度東温パクチー産地づくり事業」第一回戦略会議を東温市総合保健福祉センターで開催し、生産者、関係機関等13名が出席。
- 当室から、昨年度、標高400～500mの高地での実証試験で出荷実績のなかった9月に出荷ができ、周年安定生産への足掛かりができたこと、今年度も継続して実証試験を行い、周年安定生産につなげることを報告。
- 参加者からは、「夏収穫に向け6月上旬に播種したが、順調に育っている。風が吹くと、パクチーの香りもし始めた」「東京でのPRもぜひ行ってほしい」「今年は、加工品の商品化を目標にしたい」との声が聞かれた。
- 当室では、生産者・関係者と一体となり、①管内の標高差を利用した「産地内リレー出荷」の推進、②市場からクレームの多い夏場の鮮度保持対策と加工品の開発、③東京を中心とした東温パクチーのPR等に取り組み、「東温パクチー」の産地化を推進する。



東温パクチーの産地化に向け農業者、関係機関で協議

## 南予地方局 地域農業育成室

### ■地域一丸となった担い手育成に向けて

- 地域農業育成室は6月7日、JAえひめ南が今年度から初めて開催する「野菜栽培講座」の開講に当たり「就農から営農開始までのいろは」について講義した。
- この講座は、同室と同JAが水田農業における担い手確保や儲かる農業の実現に向け、昨年度から1年近くの議論を積み重ねながら、農業者へのアンケート調査結果なども踏まえ今回の開催に至ったもの。
- 今年度は、宇和島市三間地区の新規就農者や産直施設への出荷を目指す農業者8人が約5か月間、普及指導員OBや関係職員の指導のもと、さといもやきゅうりなどの栽培技術を学ぶとともに、篤農家のほ場で作業体験なども行う計画。
- 当室は、今後も関係機関と連携しながら、地域一丸となった担い手の確保・育成に取り組む。



普及指導員による講義



受講生のみなさん

### ■水田のジャンボタニシ被害軽減に向け講習会を開催

- 地域農業育成室は6月7日、宇和島市吉田町喜佐方地区の水稲栽培農家の要請を受け、ジャンボタニシ（スクミリングガイ）の被害軽減に向けた講習会を開催した。
- 地区の水田34haでは、3年前の西日本豪雨の大雨でジャンボタニシによる被害地区が拡大。今回、効果的な対策として、①ネット等による水路からの侵入防止、②田植時の薬剤散布と浅水による食害防止、③冬季の耕起による貝の越冬防止、④水路清掃での貝密度低減などを説明し、35人の参加者は、薬剤だけに頼らない総合的な防除体系の必要性を認識した。
- 当室は、今後、田植時の薬剤散布に加えて、冬季の耕起作業による越冬貝の密度低減と水路からの侵入防止の実証に取り組み、効果的な防除方法を提案していく。



稲を食害するジャンボタニシ



田植え直後の水管理講習



## ■加工用果物の産地化方策を協議

- 地域農業育成室は6月15日、南予地方局において、関係市町、JAえひめ南、(株)源吉兆庵等で構成する「源吉兆庵ファクトリーブランド促進協議会」を開催し、和菓子原料向けの果実4品目（びわ、もも、くり、かき）の生産見込みや産地化に向けた方策について協議した。
- 会では、4品目のうち、びわ、もも、くりは生産が徐々に伸びていることが報告された。一方、かきは品種特性から当地域では、収穫時期の気温が高く着色不良や果実の軟化が発生するため、安定生産にはきめ細かな栽培技術が必要であったが、今回、出荷基準などの見直しを確認され、生産者にとってはより栽培しやすい状況となった。
- 当室は、局予算「高級菓子用くだもの育成・ブランド開発事業」を活用し、栽培講習会等を通じて安定生産技術の普及を図るとともに、新規栽培者の掘り起こしなど産地拡大に取り組む。



源吉兆庵ファクトリーブランド促進協議会

## ■和菓子原料向け市田柿の安定生産に向け摘果を指導

- 地域農業育成室は6月25日、宇和島市柿原及び三間町で市田柿の摘果講習会を開催し、収益性の高い生産を進めるよう参加者22人に指導した。
- 講習会では、確実に増収を図るため、収穫時に100g前後の果実が中心となるよう摘果は生食用に比べ軽く行うことや、防除の効率を下げる下垂枝と日当たりを阻害する徒長枝を切除することなどを実演しながらアドバイス。
- また、今般、出荷基準などが見直されたことで、生産者から「市田柿を高接ぎするなど生産拡大したい」と意欲的な声が聞かれた。
- 当室では、7月下旬に収量見込み調査を予定しており、状況に応じた個別指導を行い、安定生産を進める。



集出荷施設での座学講習



ヘタの障害や変形した果実を摘果

■所得増に向け、鬼北地域のきゅうりが個選共販から共選共販へ移行

- JAえひめ南鬼北地区のきゅうり生産者は、これまで個人で箱詰め出荷する個選共販であったが、箱詰め作業は、整枝、防除、収穫と並ぶ重労働となっていた。
- そうした中、JAひがしうわ野村共選場で選果、箱詰めを行う共選共販の広域連携体制が整ったことから、鬼北農業指導班はJAえひめ南と連携し6月3日、出荷調整に係る説明会を開催した。
- 共選共販では選果や輸送経費などが必要となるが、これまでの規格ごとの選別、箱詰め、出荷に要する時間を削減することが可能で、その余剰労働力を栽培管理の徹底や面積拡大に反映できることから、所得増が期待できることも解説。
- 参加者からは「出荷調整の省力化を図り、きゅうりの栽培管理を充実させたい。」という意見が多く、部会員25人中23人が共選専用キャリアを購入し、順調に共選共販に移行することとなった。
- 共選共販体制への移行は産地づくりに必要不可欠であることから、当班は残りの部会員にも継続的に説明を行うとともに、鬼北地域のきゅうり産地再興に向け技術指導と面積拡大を進めていく。



生産者への共選共販説明

※JAひがしうわ野村共選場へ出荷し、JAの広域連携によるスケールメリットを活かすこととしたもの。同管内では昨年度に三間地区が先行して全量出荷を始めている。

■新規栽培候補者に栽培管理を指導 加工桃排水対策モデル園生育は良好

- 鬼北農業指導班は、加工桃の安定的な収量確保を目的に、排水対策による早期成園化実証モデル園（H30・R2年度）を設置しており、6月17日、新規栽培候補者の松野町地域おこし協力隊員2人を対象に、主枝の誘引及び新梢管理（摘芯等）について指導した。
- 当日は、管理作業のポイントなどを説明しながら作業を実施した。
- なお、令和2年度設置モデル園の樹冠容積は、対照区と比較して5倍ほど拡大。また、初収穫となる平成30年度設置モデル園の着果数は、雹害の影響を受けたものの、対照樹（約20果）と比較して約5倍（112.8果）の着果となり、初期収量の向上が確認された。
- 当班は引き続き、当モデル園の管理指導を通して、排水対策技術の普及及び加工桃栽培技術の確立に努める。



新梢管理指導



主枝の誘引（2本主枝）



## 南予地方局 地域農業育成室 愛南農業指導班

### ■就農研修生のかんきつ園地巡回を実施

- 愛南農業指導班は6月2日、JAえひめ南就農研修生4人を対象に栽培技術のスキルアップと就農後の経営安定を図るため、研修終了後に栽培する予定の園地を巡回指導した。
- 管理状況などを確認したところ、親からの経営継承を予定しているかんきつ園（河内晩柑、甘夏）の共通課題は「密植」であることが分かった。
- そこで、その場において縮間伐の方法を指導し、樹内部の受光態勢を改善するようアドバイスしたところ、研修生から「これから自分が管理する園地で直接指導してもらったので改善すべき点がよくわかった。」と、今後の作業イメージを膨らませていた。
- 同班では今後も定期的に園地巡回や講習会等を実施し、就農定着に向けて支援する。



就農研修生への聞き取り調査



就農研修生の甘夏柑園地

### ■南宇和高校への愛南農業振興に向けた出前授業を実施

- 愛南農業指導班は6月14日、愛南町農業支援センターと連携し、南宇和高校の生徒を対象に出前授業を行った。
- 同校では、今年度から愛南町の農林業や水産業など5つのテーマについて探求する総合的な授業を行っており、同班は農林業のプロジェクト活動をサポートしている。
- 当日は、普及指導員が生産量日本一を誇る愛南町の河内晩柑産地の現状と課題、県内外の優良かんきつ産地の状況についてスライドを交えて解説。
- また、同センターから河内晩柑の加工品開発や販路開拓の可能性について説明した。
- 同班は、今後、このプロジェクト活動を通じて同町の次世代の担い手である高校生に対し、農業への関心と理解を深めてもらうこととしている。



愛南町の農業について学ぶ高校生



## 南予地方局 産地戦略推進室

### ■令和3年度「第1回南予マルシェ」の開催

- 南予地方局と八幡浜支局の産地戦略推進室は6月15日、宇和島恵美須町商店街で令和3年度「第1回南予マルシェ」を開催。今回は、「道の駅みま」「道の駅清流の里ひじかわ」「道の駅虹の森公園まつの」のほか、6次産業化に取り組む「企業組合津島あぐり工房」「菓子工房KAZU」が参加し、旬の野菜や果物、地元農産物を使った加工品などを販売した。
- 今回のマルシェでは、以前から要望のあった地元食材を使った弁当や、収穫が始まったばかりの松野町産のももなども販売され、約1時間で完売するなど、買物に訪れた地域住民に大変好評であった。
- 第2回は7月8日（木）、八幡浜銀座商店街の八日市で開催する予定で、引続き感染防止対策を徹底した上で、イベントの充実・定着に取り組みながら、南予の農産物の販売促進・PRを通じて生産者の所得確保に努める。



野菜の購入に列をつくる買物客



地元農産物を使ったお弁当等の販売

### ■アボカド栽培講習会を開催

- 産地戦略推進室は6月17日、NPO法人ハート in ハートなんぐん市場（理事長 吉田良香）と連携し、愛南町平山地区のアボカド園地にて生産者ら計10人（うち新規栽培者3人、栽培候補者1人）を対象とした「アボカド栽培講習会」を開催した。
- 当日は、当室からアボカドの開花及び着果特性について説明し、NPO法人から栽培技術のポイントや当面の栽培管理について解説。生産者からは、今年の生育状況や整枝・せん定、肥培管理などについて質問があり、特に栽培候補者から多くの質問があるなど関心の高さが窺えた。
- 今年度は、関係機関と連携しながら、定期的に栽培講習会を開催して栽培技術習得を図るとともに、新規栽培者の確保・育成と新たな栽培者の掘り起こしに取り組むこととしている。



アボカドの開花特性について説明

### ■北宇和高校の生徒を対象にうめの収穫体験研修会を開催

- 産地戦略推進室は6月18日、うめの加工品開発に取り組む北宇和高校生産食品科の生徒4人を対象に、(株)松野町農林公社の園地でうめの収穫体験研修会を開催した。
- これは、今年2月に実施した栽培に関する研修会に引き続き、うめの魅力について理解を深め、より良い商品づくりにつなげるため、同社の協力を得て実施したもの。
- 研修会では、当室から完熟うめの特性について、同社から収穫方法について説明。生徒らは網を使って収穫ネット上のうめを収穫するとともに、加工施設で選別作業も体験した。
- 同校では、今回収穫したうめを使用してオリジナルのジャムづくりに取り組み、イベント等で販売する予定であり、当室は、引き続き「南予マルシェ」などによる販売機会の提供等を通じて松野町のうめの利用拡大を支援する。



収穫作業を行う生徒



完熟うめの特性と利用方法を説明

## 南予地方局八幡浜支局 地域農業育成室

### ■第1回シトラス講座をCATVで発信

- 地域農業育成室は、就農3年目までの青年農業者の技術力向上を目的にシトラス講座を開設しており、昨年度から八西CATVと連携し、講座内容を広く発信している。
- 今年度、第1回講座のテーマは「中晩柑の摘果方法」で、管内の主力品種である「不知火」、「清見」を対象に、6月17日に八幡浜市喜木地区のほ場で収録を行った。
- 講座では、全摘果部位と着果部位を区別するため、樹幹上部と下部にテープを巻き、視覚的に視聴者の印象に残るようにするなど工夫した。
- 収録内容は7月上旬から八西CATVの八西ニュース内で放送されるとともに、県公式YouTubeでも視聴可能。なお、次回は7月上旬に「気象ロボットの紹介」をテーマに収録する予定。



中晩柑の摘果方法について収録



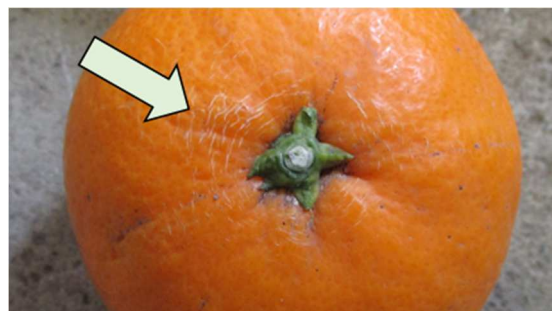
YouTube用サムネイル

### ■夏季のカルシウム剤散布による「清見」の高品質生産

- 地域農業育成室は、「清見」の主産地である三崎地区の農業者を対象とした摘果講習会（6月22日～30日、農業者延べ95人が参加）において、果皮障害の発生軽減に有効な夏季のカルシウム剤の散布について紹介した。
- カルシウム散布技術は、昨年当室が提案しJAと試験したもので、果皮の体質を強化することで、近年問題となっている果皮障害の発生を抑制できたことから、本年の講習会では、試験結果とともに散布の有効性や注意点等を農家に説明し、普及を図っている。
- 農業者からは、「散布回数が多い方が良いのか」「カルシウム剤の種類により効果の違いがあるのか」などの質問が出されるなど、関心の高さが窺えた。
- 当室では今後、JAと連携し個別巡回指導を行うこととしており、カルシウム剤散布の普及による高品質生産を目指す。



摘果講習会でカルシウム剤散布の実証結果を説明



清見で問題となる果皮障害(果梗部周辺の亀裂)



## ■スマート農業技術の普及に向けて、西宇和スマート農業推進協議会を開催

- 地域農業育成室は6月21日、かんきつ産地でのスマート農業技術の普及に向けた西宇和スマート農業推進協議会の第1回検「討会を開催し、実証農家や市町、JA、ベンダー企業等22人が出席した。
- 検討会では、令和元年度から2年間取り組んだ「スマート農業加速化プロジェクト」の実証成果を報告するとともに、技術の実証・普及に向けた具体的な方策について協議。
- 当室は今後、気象ロボットによる施肥・かん水技術、アシストスーツによる軽労働化推進、AI選果機の選果省力化技術の確立、モデル経営指標の作成などに取り組むとともに、補助事業等の活用によるスマート機器の導入支援や地域農業者への情報発信などを進め、未来型かんきつ生産への転換を目指す。



西宇和スマート農業推進協議会



気象ロボットによる最適管理について現地検討

## ■就農支援チーム設立検討会を開催

- 地域農業育成室は、かんきつ産地の担い手の確保・育成に向け、移住就農希望者に対して農業体験や農業研修、就農・定着までのサポートを行う就農支援チームの設立を支援している。
- その一環として、6月29日、伊方町町見地区・大久地区の集落役員や共選役員等34人を対象に設立検討会を開催し、就農支援チームの役割や設立のメリット、既存チームの事例などを紹介したほか、当地区における担い手支援チームの構成員や研修生の対応等について検討した。
- その結果、町見地区は、出席者の合意形成が図れたため、担い手支援チームを設立することとなり、また、大久地区は、合意にならなかったものの、まずは県外からのかんきつ収穫アルバイトを確保する雇用促進協議会の設立を検討することになった。
- 八西管内では、現在、10地区で就農支援チームが設立されており、16人が研修を終え就農するなど、新規就農者の確保育成に重要な支援システムとなっていることから、当室では管内主要産地14地区での設置を目指し、今後、未設置地区に就農支援チーム設立の働きかけを行う。



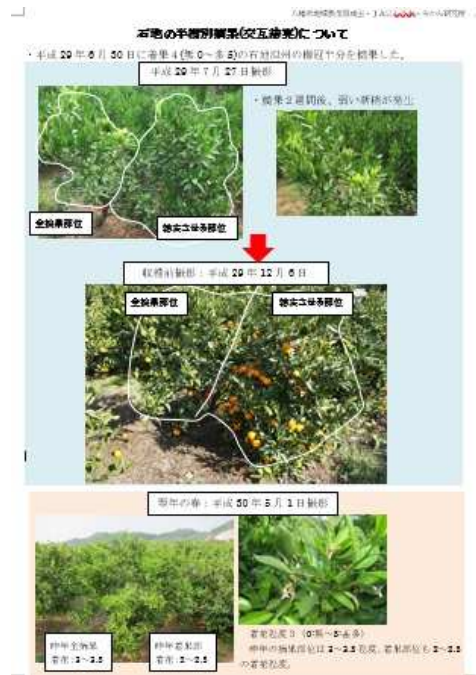
就農支援チームの概要説明

## ■「石地温州」の隔年結果防止マニュアルを作成し、講習会で普及推進

- 地域農業育成室はみかん研究所及びJAにしようわと連携し、「石地温州」の隔年結果対策として、平成29年度から半樹別交互結実(半樹別摘果)を実証してきたが、技術がほぼ確立できたことから、このほどマニュアルを作成し、6月9日、栽培農家を対象に講習会を開催した。
- 「石地温州」は、浮皮が少ない品種として導入され、管内で約67haで栽培されているが、着果が多いと翌年結果量が少なくなる隔年結果しやすい品種でもあり現場で問題となっていた。そこで、当室では「川田温州」で取り組まれている「半樹別交互結実」を参考に、当品種用にアレンジして技術マニュアルとして取りまとめ普及を図ることとした。
- 講習会では、マニュアルを配布し摘果時期、摘果方法、注意点などについて説明するとともに、実技を交えて指導。今後は、半樹別摘果した樹の仕上げ摘果を講習するとともに、効果実証のデータを蓄積し、管内農家に推進していく。



講習会で実技を交えて農家に指導



「石地温州」の半樹摘果マニュアル



■刀根早生柿の早期出荷に有効な6月の剥皮処理を啓発！

- 大洲農業指導班は6月8日、JA愛媛たいきと連携し「刀根早生」の剥皮・キュアリング講習会を開催した。
- 「刀根早生」は、全国的に出荷が多くなる10月以降価格が大きく下落するが、品薄な9月の早期出荷は高単価で取引される。早期出荷への技術対策は、2～3年生枝への環状剥皮やキュアリング処理を6月中旬～下旬に行うことが有効で、早期着色や肥大促進による出荷の前進化を実証済み。
- 2～3年生枝への処理は、枝数が多くなり労働負荷が大きいことから、軽労働化につながる亜主枝や側枝単位の処理も併せて紹介。出席者19人は剥皮処理に前向きで、自分の園地にあった処理方法で取り組む。当班は、今後の摘果講習会や個別巡回で適正な着果量調整や病害虫の適期防除など、高品質果実生産に向けた指導を継続する。



剥皮・キュアリング講習



環状剥皮

(1cm間隔で環状の傷を2本入れ、皮を剥ぐ。  
この後、添え竹と結束バンドで固定する)



キュアリング

(2cm間隔で環状の傷を3本入れ、  
皮は剥がない)

■農業の維持・発展に向けた「農事組合法人やさらい」設立

- 大洲農業指導班は、農地の集積・集約による効率的な農業を実践する集落営農体制づくりの重点地区である大洲市野佐来地区において、関係機関と連携して法人化を推進している。このような中、集落型法人「農事組合法人やさらい」を設立する運びとなり、6月1日に設立総会が開催された。
- 同地区では、「農地中間管理機構関連農地整備事業」を活用した基盤整備により法人へ農地を集積し、効率的な営農体系づくりを進め、新たな高収益品目である薬用シソ等の導入による経営の安定と地域の活性化を目指している。
- 当班は、同法人に対し、法人の後継者となる担い手の確保対策や薬用作物の産地づくりを支援し、関係機関と共に、法人の経営基盤の強化に向けてサポートする。



「農事組合法人やさらい」設立総会



## ■「若くても作業は楽がいい！」アシストスーツ試着体験会の実施

- 大洲農業指導班は6月9日、大洲市と連携して、大洲市青年農業者協議会員14人を対象に、農作業の負担軽減をテーマにアシストスーツの試着体験会を実施した。
- 同協議会は、労働力の確保対策や軽労働化の取組について、地域に先駆けてアシストスーツを試験導入し、効果が確認できれば地域へ波及させる独自プロジェクトをスタートさせており、今回は農作業の負担軽減を焦点に開催したもの。
- 約20kgの荷物を持ち上げ、アシスト感を体感した会員からは、「本体が思っていたより軽い」「着脱が簡単」「中腰姿勢が楽になり、持ち上げ作業もスムーズに感じた」など、効果を感じた意見があった一方、「移動する作業には向かない」「補助があったのかわからない」など感じ方に違いもあった。
- 同協議会はスーツを試験導入し、実際の作業での検証を進める予定で、当班は今後、効果の測定方法のアドバイスやベテラン農家への波及に向けた機会づくりなどに取り組み、協議会活動を支援していく。



装着感を確認



20kgの重さでアシスト感を体感

## ■新規就農者の定着を強力に推進

- 大洲農業指導班は6月1～4日、大洲喜多地区就農サポートチーム活動の一環として、新規就農者や就農を目指す研修生に対し経営や栽培管理等を指導した。
- 1haを超える大規模ぶどう園を目指す新規就農者には、摘粒作業等の技術指導、養豚での就農者には、南予家畜保健衛生所と連携し、経営状況の聞き取りなどを実施。
- また、将来、ぶどう栽培で就農を計画しているエコファームうちこの研修生には、地域のぶどう生産者との交流を兼ねたベテラン農業者のほ場見学を実施し、シャインマスカットで問題となっている開花異常の現状や栽培管理状況の確認、意見交換を行った。
- 当班は、新規就農者の定着に向けた技術指導を進めるとともに地域の生産者とのつながりを深め、サポート体制の強化に努める。



豚舎の現地確認



就農初年度の就農者に摘粒指導

## ■新たな品目の産地づくりへ協議

- 大洲農業指導班は高度普及推進グループと共に、ショウガの多収栽培体系確立を目指す(株)誠実村を訪問し、「普及組織先導型革新的技術導入事業」への応募について協議した。
- 低コスト耐候性ハウスの導入による栽培環境の向上とともに、かん水方法などの見直しによる新ショウガの多収を狙い、貯蔵ショウガを組み合わせた年間出荷を目指すもので、実需者が最も望む安定供給が可能となることから販路拡大が期待できる。
- また、同社は、ショウガ栽培で独立就農を予定している従業員を後押しするため、種ショウガの供給や販売を同社が担うことも計画で、種ショウガの安定供給と販売を一手に行う体制構築により、さらに周辺農家を巻き込んだ産地づくりへ発展させたい考え。
- 当班は、同グループや大洲市と連携し、導入技術の実証に向けた支援や新たな品目での産地づくりの協議を行っていく。



法人との事業計画協議



事業計画の概要

## ■管内大規模法人と意見交換

- 大洲農業指導班は6月11日、農林水産研究所とともに管内の大規模法人を訪問し、栽培状況を調査した。
- (有)CBC予子林は、本県で数少ない1ha規模の高度環境制御による施設トマト経営を行っており、同研究所が研究を進める「施設栽培における最適環境条件の解明と複合環境制御による高品質多収生産技術の確立」の参考とするため意見交換を兼ねてヒアリングした。
- 同社は、旧肱川町の地域振興の一環として雇用拡大を目的に約25年前に立ち上げ、栽培様式は、オランダ方式(フェンロー型)でコンピュータ制御を導入した11,100㎡(トマト2万5千本)の養液栽培。定植は7月20日、約10ヵ月収穫する。ベッドはココスラブ(ヤシガラ)で3作連続利用。暖房は作業通路に敷設した作業台レールと兼用のパイプで行い、冬場にはCO<sub>2</sub>を施用する。また、選別作業場のアクリル板設置や換気扇を導入するなど従業員の新型コロナウイルス感染防止対策にいち早く取り組んでいる。
- 長年の栽培経験に基づくノウハウの蓄積により生産技術レベルは高いが懸念される労力管理について、当班は同研究所と連携し、作業性向上に向けた従業員個々の動線分析やワンボードPCとカメラを組み合わせた生育確認等のDX技術について、導入に関する情報提供等を行っていく。



代表に質問する研究員



作業用レールと暖房を兼ねたパイプ



■高品質果実生産に向けたぶどうの摘粒講習会を開催

- 西予農業指導班は6月7日、JAひがしうわと連携し、東宇和ぶどう生産部会員7人および皆田営農部会員9人を対象に、果粒肥大と労力削減のための予備摘粒や今後の肥大促進および収穫期の裂果防止につながる摘粒の重要性に関して、講習会を開催した。
- 今年度の生育は2～3月の気温が高めに推移したことから、平年と比較し発芽、開花ともに1週間程度早かった。参加者からは、開花期の作業が短期間に集中し、作業が遅れ気味になったり、過去最速の梅雨入りによる生育への影響を不安視する声も聞かれた。
- 当班では、発生が予想される晩腐病やべと病の適期防除を呼びかけるなど、高品質生産につながる栽培を指導していく。



摘粒作業のポイントについて指導

■地元農高生に対して水稲栽培に関する理解を深める

- 西予農業指導班は6月9日と23日、西予市水稲防除協議会と連携し、県立宇和高校の農場において、農業科（生物工学科）の生徒9人を対象に水稲の肥料試験における生育調査方法の研修会を開催した。
- これは、将来、地元の高校生が地域農業の担い手として活躍してもらえるよう、普及指導員が直接、実践的な技術などを指導しているもので、売れる米づくりと担い手育成を目的に開催している。
- 生徒は、分けつ数の数え方や草丈の測定方法の指導を受け、施肥区分による生育状況の違いを数値で客観的に把握し、試験結果を栽培技術の基礎資料として活用している。
- 当班ではこうした活動を通じて、地域の主要品目である「宇和米」に対する理解を深めるだけでなく、地域農業の現状や農業の魅力を生徒に伝え、将来、地域を担う人材の育成に努める。



調査方法を指導する普及職員



肥料試験ほ場での生育調査

## ■積算温度計の導入により小麦の刈取適期を予測

- 西予農業指導班は6月1日、小麦の刈取適期を決定するため、JAひがしうわと共催でほ場見回り会を実施し、生産者11人を対象に巡回指導した。
- また、生産者が適期刈取目安を判断できる環境整備を図るため、出穂期からの積算温度を可視化できる積算温度計を小麦ほ場2カ所に設置しており、見回りに合わせ温度計の確認方法についても指導した。
- 成熟状況を確認した結果、播種が早いほ場では6月5日が刈取目安となった。収穫は、降雨の影響を見極めながら行われ、6月中旬頃に終了した。
- 県下の小麦の産地を維持・発展していくため、当班では今後も適期刈取りを進めるとともに、地元産小麦の認知度向上に向けた対策を検討していく。



ほ場で成熟期を確認



設置した積算温度計

## ■大野ヶ原にんにくの出荷始まる！

- 西予農業指導班が西予市大野ヶ原で産地化を支援している寒地系にんにく「ホワイト6片種」について、このほど出荷が始まった。
- 6月7日から試し掘りを実施し、収穫適期の目安となる糖度を超えたほ場から、大野ヶ原にんにく組合などの栽培者が収穫を開始。収穫したにんにくは根と茎をカットして調製し、1kgずつ箱詰めし「生にんにく」として、(株)祐を通して販売される。
- 同時期にメディアに取り上げられたこともあり、問い合わせや注文が殺到しており、西日本初の寒地系にんにくとして注目の高さが窺えた。
- 今季は約4tを見込んでおり（栽培面積：50a）、順次収穫して乾燥し、黒にんにくにも加工される。
- 当班は栽培者に対し、引き続き安定生産に向けた栽培技術を指導するとともに、活用法も検証しながら、にんにくの販売促進と認知度アップによる産地化を支援していく。



試し掘りによる収穫適期の判断



にんにくを調製する生産者



### ■細霧冷房導入へ向けた現地研修を実施

- 西予農業指導班は6月16日、大玉トマト生産者5人を対象に、JA愛媛たいきの冬春トマトほ場において、細霧冷房の現地研修を行った。
- これは「野菜・花き産地供給力強化支援事業」を活用した細霧冷房の導入を検討している生産者より、実際に導入しているほ場を視察したいとの要望を受け、同JAと連携し開催したもの。
- 生産者は視察受入農家に細霧冷房施設に関することや、導入して良かった点等を活発に質問・意見交換しており、関心の高さが窺えた。
- 当班からは、細霧冷房を導入することにより、ハウス内温度の低下や湿度の上昇、品質向上が可能であることなどの情報を提供した。生産者の関心も高いことから、今後は事業の活用や導入を支援していく。



視察受入農家（左）に質問する生産者

### ■新たな高収益作物として「さといも」の導入を検討

- 西予農業指導班は6月24日、西予市宇和町のほ場でさといもの現地研修会をJAひがしうわと連携して開催し、生産者など10人が参加した。
- 昨年、「(農)いのべにし」が宇和島市内の選果場に出荷したさといもの品質が良好であったことから、JAひがしうわ管内でも導入の機運が高まり実施したもので、「(農)いのべにし」のほ場でさといもの生育や病害虫発生状況を確認した。
- 当班は、さといもを新たな高収益作物として位置づけ、農業法人等への導入を推進していく。



「(農)いのべにし」ほ場で現地研修



■加工用青ねぎの収量UPにつながる育苗条件を改善

- 産地戦略推進室は5月26日、冬季育苗技術の改善に向けた実証試験の一環で、各種条件下で育苗した苗について、定植後の収量調査を実施した。
- その結果、ゼオライト含有培土育苗区等、定植時点で慣行よりも生育が優れていたいくつかの試験区において、最終的な収量も20%程度増収することが明らかとなった。
- 本結果は、加工用青ねぎの生産を担う(株)百姓百品村の担当者と共有し、健全育苗の重要性を再確認するとともに、今年度の冬季に改めて再現性を確認することで、収量の改善につながる育苗条件の絞り込みを行う方向で合意した。
- 当室では今後、夏季高温時の収量低下等、産地が抱える他の課題の改善にも取り組みながら、周年安定生産技術の確立を図っていく。



冬季育苗試験後の収量調査

■マーマレードに次ぐかんきつを利用した特産品開発を目指して

- 産地戦略推進室と地域農業育成室は6月24日、農業大学校と連携し、(企)高野地フルーツ倶楽部会員7人を対象に特産品開発講座を開催。
- 本講座では、マーマレードに次ぐ新商品として「フルーツソース」の開発を目指し、(株)フードスタイルの近藤路子氏を講師とし、砂糖や風味つけのスパイスの種類によって色や食感、風味が変わることを確認した。
- 参加者からは、「砂糖の違いで色やコクが全く違う」「スパイスの香りがフルーツソースのアクセントになった」などの意見が聞かれ、スパイスや砂糖の使用量、特性等に関する講師への質問も活発で、今後の開発に繋がる前向きな意見交換が行われた。
- 今後、両室は「フルーツソース」の商品化に向けて、更なる材料やパッケージの検討について支援を続ける。



数種類の砂糖とスパイスの違いを検討



フルーツソースの試作

## ■半樹交互結実で「川田温州」の連年安定生産

- 産地戦略推進室は6月29日、「川田温州」の連年安定生産に向けて、生産者13人を対象にみかん研究所及び真穴地区の現地ほ場で半樹交互結実摘果研修会を開催するとともに、管内8園地の互評を実施した。
- 「川田温州」は隔年結果性が極めて強いことから半樹交互結実を2年前から推進しており、先駆的に実施してきた生産者の園地では、前年の結果部には着果そのものが少なくなり摘果作業の必要がない樹もある。今回の研修では、半樹交互結実の効果の確認、手法や留意点について説明。その後、作業の工夫点など意見を交わし技術の向上に努めた。
- 当室では、「川田温州」の生産を始めて間もない若い生産者へ重点指導を行うなど、技術の定着を図る。



半樹別摘果のポイントについて指導



半樹別交互結実の状況

## 農産園芸課 高度普及推進グループ

### ■リアルタイム農業普及指導ネットワークシステムによる遠隔診断スタート

- 高度普及推進グループは6月15日、普及指導員と研究員を対象に第1回環境保全型調査研究会を開催するとともに、会員がシステムの操作法を現地で体験するデモ診断研修会を開催した。
- 同調査研究会では、本年度「リアルタイム農業普及指導ネットワーク」の本格稼働に先駆け、会員等が診断を実際に体験してデータや意見を集約するほか、病害虫・生理障害の遠隔診断の手法等をマニュアル化していくこととしており、同ネットワークの基本操作について、当グループが作成したガイドや動画を用いてリモート会議で普及拠点ごとに説明するとともに、同研修会では、当グループの担当者が各普及拠点を訪問し現地からの映像の配信方法や、現地映像のデータベースへの登録方法を指導した。
- 8月からは、会員各自がシステムを使用した診断を実施し、貴重な病害虫等の現地映像を蓄積、データベース化することとしており、普及指導員の資質向上や現場指導資料の構築に役立てていく。



現地映像を基にしたデモ診断（県庁通信ルーム）



スマートフォンでの現地映像の送信（東温市）

※リアルタイム農業普及指導ネットワーク：昨年度、県と県内システム会社が開発したスマートフォン等で撮影された現地映像を基にリアルタイムで病害虫等の遠隔診断を行うシステム。

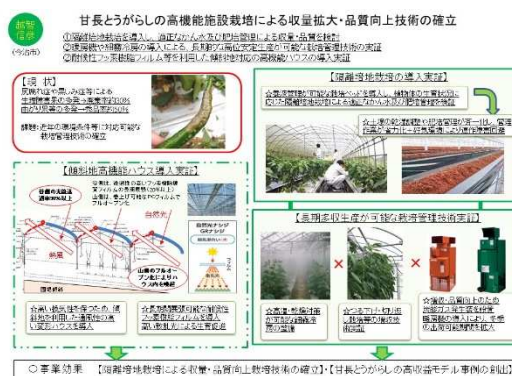


## ■普及組織先導型革新的技術導入事業計画の策定に係る協議について

- 高度普及推進グループ及び今治支局産地戦略推進室は、甘長とうがらしの収量拡大、品質向上技術の確立に向けて取り組む生産者の普及組織先導型革新的技術導入事業への応募に係る関係者との事業計画の協議を行った。
- 同事業は、高度な技術を持つ生産者が革新的な技術を導入する際に、県が技術導入に係る経費について助成を行うもので、県下では導入事例のない新技術の実証が過去2年間で6件始まっている。
- 同事業計画は、甘長とうがらしの収穫期間の延長及び収量の拡大を図るため、隔離培地栽培に取り組むほか、傾斜地を利用した換気効率の高い新型ハウス等を導入することにより、部会の平均収量の倍となる反当6tの収穫を目指すもので、協議には、事業に応募した生産者のほか今治市、JAの担当者が出席した。
- 当グループは関係機関と連携し、導入技術の実証に向けた支援や新たな高収益栽培技術の確立、普及を図る。



市、JA担当者との事業計画の協議



事業計画の概要

## ■第1回普及指導員流通・経営、6次産業化調査研究会の開催

- 高度普及推進グループは6月25日に、A I S I S U株式会社の平本哲也氏を講師に迎え、第1回普及指導員流通・経営、6次産業化調査研究会を、リモート会議により開催した。
- 地方局・支局等の普及関係職員56名が参加した同研究会では、講師から「商品づくりのコンセプトと流通・販売価格」について、「価値観の訴求」や「作り手の信念」、「コストの追求」と「リスク管理」等の講義を受けた。
- 講義後は、6月23日に承認した10件の「コロナ禍での売れる商品づくりプロジェクト」活動計画について個別相談会を開催し、講師とともに調査活動等へのアドバイスを行った。
- 第2回研究会は、6次産業化の現地研修と「コロナ禍での売れる商品づくりプロジェクト」活動中間協議を10月上旬に開催予定。



リモート研修会



地方局・支局担当者の参加画面

## ■首都圏での流通・販売動向等調査のPR動画の撮影開始

- 高度普及推進グループの指導により実施する「若手普及指導員による首都圏での流通・販売動向等調査」で使用する産地ビデオの撮影が始まった。
- 参加する5名を、首都圏調査の調査対象産品となる「かんきつ」と「さといも」の2班に分け、6月15日と17日にリモート会議を開催し、PR動画の撮影の内容について絵コンテを作成して協議を行った。
- また、「さといも」班は21日に主産地である東予地域において、ドローン等を利用した撮影を実施している。「かんきつ班」も7月中には撮影を開始する予定。
- 8月上旬には中間報告と首都圏流通研修会を開催し、11月又は2月の本番に向けた準備を進めていく。



かんきつ班リモート会議



さといも班の撮影したPR動画

## ■ひめの凜の高品質・良食味栽培に向けた中干し講習会を開催

- 高度普及推進グループは、県オリジナル育成品種「ひめの凜」の栽培管理を徹底するため、栽培のポイントとなる中干しと病虫害対策に関するマニュアルを策定し、栽培者にその内容等を説明する講習会を開催した。
- マニュアルでは、田植後30日後を目安とした気象に左右されない適期中干しと、10日間の中干し期間を飽水管理とするなど、収量・品質の面からみたメリット等について解説している。
- 更に、マニュアルでは、昨年に被害をもたらしたトビイロウンカの本年の発生状況や今後の対応と、栽培の上で重要となるいもち病や稲こうじ病の耐性菌の発生メカニズムや、防除方法等を写真や図を中心に分かりやすく記述している。
- なお、全49ページのマニュアルは県ホームページで公開するとともに、6月22日から7月1日にかけて地方局・支局ごとに開催している講習会では一部を抜粋し、生産者やJA営農指導員等に対し説明するなどして、栽培管理の周知、徹底を図っていく。



中干し・病虫害対策マニュアル



地方局でのマニュアルの説明

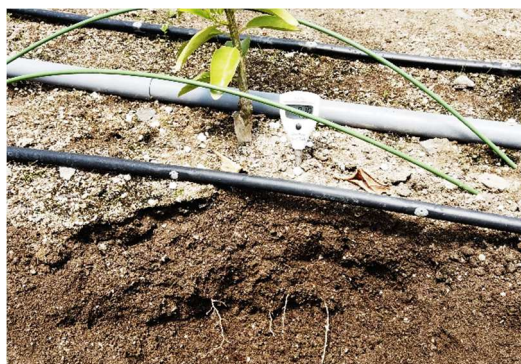


## ■「紅プリンセス」根域制限栽培モデル園で施肥・かん水管理の実証開始

- 高度普及推進グループは、水田転換園での紅プリンセス（愛媛果試第48号）の根域制限栽培実証モデル園で、改良した土壌や個々の樹体の状態に応じた施肥、かん水管理技術に係る実証を開始した
- 当モデル園では、水田転換園特有の高い地下水位や排水不良を避けるために徹底した排水対策を行っており、実証では排水性や保水性を改良した大型の根域制限栽培槽の特性を見極めた施肥、かん水管理技術の確立を目指すもの。
- 現在、1年生苗木の定植1年目の新根の伸長を確認しながら簡易なECテスターを用いて複数地点の土壌肥料濃度の変化を計測しながら施肥とかん水のタイミング等を調査、確認中。
- 当グループでは引き続き、紅プリンセスの根域制限栽培における効果的な栽培技術の確立を図るとともに、誰もが現地においてリアルタイムで適正な施肥、かん水量が判断できる栽培技術を確立する。



根の伸長が弱い樹への局所施肥効果を確認



施肥前の発根位置と肥料濃度の確認

## ■新規格高設栽培ベッドで栽培した、いちご株の掘取り調査を実施

- 高度普及推進グループは、いちごの高設栽培で高収量を上げている生産者の根部の状態を確認するため、いちごの株掘り取り調査を行った。
- 高収量を上げている東温市、伊予市等のほ場では、旺盛な地上部の生育に合わせて根部も健全に発達していることを確認したほか、西条市で高収量を上げている生産者のほ場に設置している排水性に富む専用培地を使用し大容量化した新規格のベッドでも、慣行区に比べ白く太い根が培地内全体に均一に張り巡らされていた。
- 一方、多くのほ場で春先の旺盛な地上部の生育により、培地内の肥料濃度が急速に低下していることが確認されるとともに、特に大容量化したベッドを用いる場合、培地内に張り巡らされた根から養水分が多量に吸い上げられること等から、従来の給液量では不足していること等が確認された。
- 当グループでは、今回の調査に加え、篤農家の育苗期中の栽培管理を継続的に調査する予定で、栽培環境や品種などの諸条件に合わせた新しい肥培管理技術を確立することにより反当7 t以上の収量を確保するための高設栽培技術の確立に取り組む。



新規格ベッド(写真左)は力強い白い根が培地内に均一に張り巡らされている。(西条市)



収穫終盤まで旺盛に発達した根域(伊予市)

## ■さといも貯蔵種芋が生産能力調査実証ほど順調に生育

- 高度普及推進グループは6月25日、大洲市で実施している分割貯蔵したさといも種芋の生産能力調査に関する実証ほにて、さといもの生育状況を調査した。
- 調査の結果、貯蔵庫に安置する前の種芋の分割の有無や水浸漬時の浮き沈みの違いによる生育差は今のところ確認されず、大洲市産を含め南予地方局及び農林水産研究所から提供を受けた貯蔵条件の異なる種芋についても生育状況は良好だった。なお、先の発芽時期の調査においても、土中で保存されていた種芋に比べ発芽が10～12日程度遅れるものの、各区における発芽勢の差異はほとんど見られなかった。
- 今後、梅雨明け以降の適正な水管理を指導しつつ、さらに経時的な生育状況を調査し、種芋表面のコルク層の形成要因等の分析を進める。
- 当グループは、今後、当試験の調査結果等を各関係機関と情報共有しつつ、分割貯蔵した種芋の安定供給体制の構築に取り組む。



生育状況の調査



現状、大きな生育差はなし



■■■ 情報の問合せ先一覧表 ■■■

文中略称	正式機関名	所在地および連絡先
東予	東予地方局農林水産振興部 農業振興課	西条市丹原町池田 1611 TEL:0898-68-7322 FAX:0898-68-3056
四国中央	東予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 四国中央農業指導班	四国中央市中之庄町 1684-4 TEL:0896-23-2394 FAX:0896-24-3697
今治	東予地方局農林水産振興部 今治支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	今治市旭町 1-4-9 TEL:0898-23-2570 FAX:0898-22-9724
しまなみ	東予地方局農林水産振興部 今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班	今治市伯方町木浦甲 4637-3 TEL:0897-72-2325 FAX:0897-72-1912
中予	中予地方局農林水産振興部 農業振興課	松山市北持田町 132 TEL:089-909-8762 FAX:089-909-8395
久万高原	中予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 久万高原農業指導班	上浮穴郡久万高原町入野 263 TEL:0892-21-0314 FAX:0892-21-2592
伊予	中予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 伊予農業指導班	伊予市市場 127-1 TEL:089-982-0477 FAX:089-983-2313
南予	南予地方局農林水産振興部 農業振興課	宇和島市天神町 7-1 TEL:0895-22-5211 FAX:0895-22-1881
鬼北	南予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 鬼北農業指導班	北宇和郡鬼北町興野々1880 TEL:0895-45-0037 FAX:0895-45-3152
愛南	南予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 愛南農業指導班	南宇和郡愛南町城辺甲 2420 TEL:0895-72-0149 FAX:0895-73-0319
八幡浜	南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	八幡浜市北浜 1-3-37 TEL:0894-23-0163 FAX:0894-23-1853
大洲	南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班	大洲市東大洲 174 TEL:0893-24-4125 FAX:0893-24-5284
西予	南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班	西予市宇和町卯之町 3-434 TEL:0894-62-0407 FAX:0894-62-5543